

令和4年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等
に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」
成果報告書

令和5年3月
一般財団法人全日本ろうあ連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般財団法人全日本ろうあ連盟が実施した令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

【調査概要と目的】

聴覚障害者への指導現場においては、きこえない選手ときこえる指導者との意思疎通のためには、手話言語通訳者が欠かせません。スポーツの指導現場における手話言語通訳者に求められる役割・知識としては、聴覚障害に関する理解はもちろんのこと、スポーツへの理解、医科学面・アンチドーピングを含むハイレベルスポーツに共通する知識のほか、スポーツならではの特性として競技毎にルールや必要とされる技術、使用用具などが大きく異なり、手話言語通訳としては非常に専門性の高いものとなります。また競技における専門用語の中には手話表現が確定されていないもの、地域によって手話表現が異なるものもあります。

そのため指導現場で手話言語通訳を行うには、手話言語通訳者が多くの知識を身につけることは勿論のこと、競技における専門用語の手話表現の確定や共通化（現状、指導現場で使用され普及しているサインも含む）も必要です。

そのため、2020年度より「スポーツに精通した手話言語通訳者の育成等に関する有識者による検討委員会」（以下、「検討委員会」）を設け、導入としてのデフスポーツの紹介から、国歌手話言語試行版、学校体育・部活動編の他に、競技別として、自転車、サッカー、陸上、卓球を取り上げたマニュアルを作成してきました。

そして2021年度の本事業において、「今後、デフのそれぞれの競技団体において、手話通訳者の需要について数的なデータを集めたいと、デフアスリートの発掘と共に通訳者を探していく必要があり、そして手話言語通訳者が全体的に高齢化しているため、スポーツを通して若い人の手話言語通訳者を増やしていく体制作りが必要。また監督、コーチのみならず、ドクター、トレーナー、栄養士、メンタルサポート、科学者、アナリスト等、多くのデフアスリートを取り巻く人々に対するマニュアル作成が必要」という課題を検討委員会で確認しています。

この課題を踏まえて、2022年度は、共通編として「医科学編」を、競技編においては、デフリンピックに派遣している競技団体でまだ取り上げられていない「バスケットボール」と「水泳」と「空手道」を取り上げました。

そして、昨年度同様に検討委員会の下に「専門部会（医科学編・バスケットボール編、水泳編、空手道編）」を設け、各競技における有識者を選出し、それぞれのマニュアルの作成をすすめ、現場の通訳経験者とスポーツ通訳に興味のある通訳者による研修会開催し、作成したマニュアル等の有効性や実効性を確認しました。

昨年度の研修会ではオンラインではなく、対面を希望する声が多かったため、今年度はオンラインと対面のハイブリットとしたところ、350名近くの申込みをいただくなど、多くの手話言語通訳者にとって関心の高いテーマであることが分かりました。2023年度も引き続き、開催することでスポーツに精通した手話言語通訳者の発掘につなげていきます。

なお、検討委員会において、2023年度のテーマとして、手話言語通訳者もインテグリティについて知っておくべきという意見が出た他、2024年にはバレーボールの世界選手権が、2025年にはデフリンピックが日本で開催されるなど国際スポーツ大会が目白押しということもあり、国際手話通訳をテーマにしたうえで、国内開催での国際大会と海外遠征の国際大会と2軸をそれぞれ整理していくことを確認しました。

実施日程表（実績）

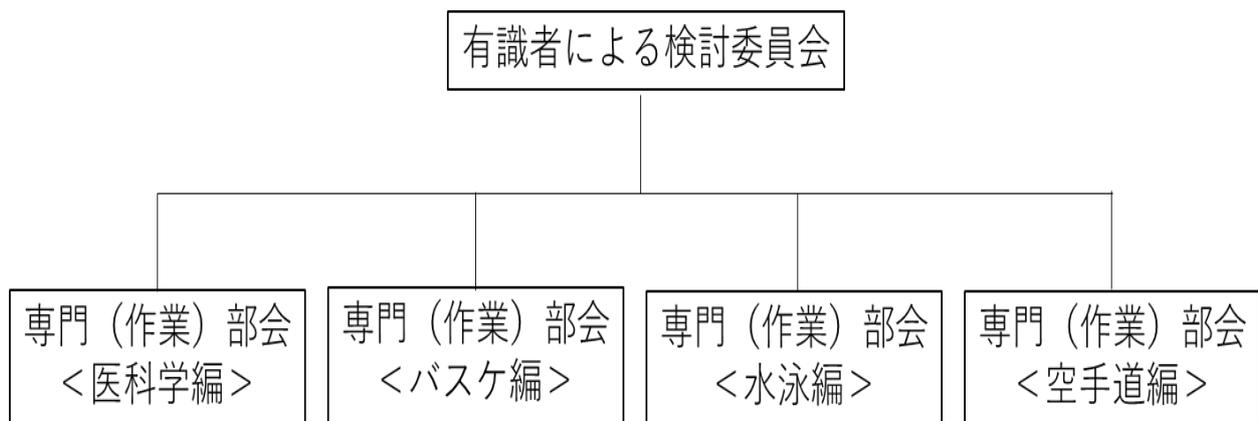
実施時期	実施事項	
	1. 検討委員会	2. 専門部会
10月	4日 委託契約	

	6日 第1回検討委員会	6日 第1回専門部会
11月	17日 第2回検討委員会	17日 第2回専門部会
1月	10日 第3回検討委員会	10日 第3回専門部会
2月	11日 研修会開催	
3月	2日 第4回検討委員会	2日 第4回検討委員会
	事業委託成果報告書作成（製本）、完了報告書（会計等）提出	

事業実績の説明

（1）有識者による検討委員会

- 「デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会」委員の選定
全日本ろうあ連盟及び医科学・水泳・バスケ・空手道の関係団体（手話言語関係団体、デフスポーツ競技団体、現場手話言語通訳者等）から適任者を選定し、委員を委嘱した。



<検討委員会委員> 8名

国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊
国立大学法人筑波技術大学 教授	中島 幸則
一般社団法人日本手話通訳士協会 事務局長	草野 真範
順天堂大学スポーツ健康科学部 スポーツ医学研究室 教授	塩田 有規

一般社団法人日本ろう者水泳協会 理事	藤川 彩夏
NPO 日本デフバスケットボール協会 普及委員長	長谷川 俊夫
一般社団法人日本ろう空手道協会 監督	高橋 朋子
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長	山田 尚人

<任務内容>

- ・委員会会議出席（期間内4回を予定、オンライン参加対応可）
- ・メーリングリスト等を活用した意見交換
- ・パンフレット作成への意見提案・骨子案作成
- ・スポーツに精通した手話言語通訳者養成オンライン研修会企画、検討
- ・事業の結果・分析、提言作成

(2) 専門（作業）部会

1. 「デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成マニュアル作成における専門（作業）部会」部員の選定

検討委員会の意見を元に、マニュアル（医科学編、水泳編、バスケ編、空手道編の4冊）を作成する作業部会として、手話言語関係団体、デフスポーツ競技団体、現場手話言語通訳者等から適任者を選定し、ろう当事者ときこえる人のバランスも考慮したうえで部員を委嘱した。

なお、レイアウト等の作成方針を統一するために、当連盟スポーツ委員会事務局長を作業責任者として、筑波技術大学総合デザイン学科の学生が編集担当として4部門すべてに入った。

<医科学編> 6名

国立大学法人筑波技術大学 教授（ろう）	大杉 豊
国立大学法人筑波技術大学 教授（きこえる）	中島 幸則
一般社団法人日本手話通訳士協会 事務局長（きこえる）	草野 真範
順天堂大学スポーツ健康科学部 スポーツ医学研究室 教授（きこえる）	塩田 有規
国立大学法人筑波技術大学総合デザイン学科（ろう）	高野 大輝
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長（ろう）	山田 尚人

<水泳編> 4名

一般社団法人日本ろう者水泳協会 理事（ろう）	藤川 彩夏
一般社団法人日本ろう者水泳協会 スタッフ（きこえる）	山崎 眞季
国立大学法人筑波技術大学総合デザイン学科（ろう）	高野 大輝
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長（ろう）	山田 尚人

<バスケ編> 4名

NPO 日本デフバスケットボール協会 普及委員長（ろう）	長谷川 俊夫
NPO 日本デフバスケットボール協会 手話言語通訳者 （きこえる）	澤井 美佳
国立大学法人筑波技術大学総合デザイン学科（ろう）	高野 大輝
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長（ろう）	山田 尚人

<空手編> 4名

一般社団法人日本ろう空手道協会 監督（ろう）	高橋 朋子
一般社団法人日本ろう空手道協会 スタッフ （きこえる）	川島 明希子
国立大学法人筑波技術大学総合デザイン学科（ろう）	高野 大輝
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長（ろう）	山田 尚人

<任務内容>

- ・マニュアル（医科学編、水泳編、バスケ編、空手道編）作成
- ・検討委員会、専門部会議出席
- ・メーリングリスト等を活用した意見交換
- ・スポーツに精通した手話言語通訳者養成研修会開催運営

(3) 「検討委員会」「専門部会」会議の開催

- ・第1回検討委員会後、検討委員会で出た意見を基に、マニュアルのたたき台を作成するために4回会合を行った。第2回検討委員会後は、主にメーリングリストを用いて、マニュアルの加筆・修正を行った。

会議日時	出席者
------	-----

<p><オンライン（ZOOM ミーティング）> 第1回…2022年10月6日（木） 第2回…2022年11月17日（木） 第3回…2023年1月10日（火） 第4回…2023年3月2日（木）</p>	<p>・検討委員 （大杉、中島、草野、塩田、藤川、 長谷川、高橋、山田）</p>
<p><各共通> 18：00～20：00 検討委員会 20：00～21：00 専門部会①（医科学） 21：00～22：00 専門部会②（水泳・バスケ・空手道）</p>	<p>・専門部員 ① 医科学チーム（大杉、中島、草野、 塩田、高野、山田） ② 水泳チーム（藤川、山崎、高野、 山田） ③ バスケチーム（長谷川、澤井、高 野、山田） ④ 空手チーム（高橋、空手、高野、 山田）</p>

●第1回

開催日時：2022年10月6日（木）

- 議 題： 1. 事業概要・主旨・方向性の確認
2. マニュアル（冊子）について
3. 研修会の位置付けについて

議論概要：デフスポーツに精通した手話言語通訳者を養成していくために、令和2年度の「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」では、今後、デフスポーツにおける、「学校教育」「レクリエーション」「競技」などの分野毎に通訳が必要なケースや、通訳をするにあたっての留意事項をまとめたマニュアルが必要という提言を元に、今年度はドクター、トレーナー、栄養士、メンタルサポート、科学者、アナリスト等、デフアスリートを取り巻く方々に焦点をあて、「医科学」における手話言語通訳をテーマとしたマニュアルを作成することを確認した。あわせて専門競技のマニュアルとして、「水泳」「バスケ」「空手道」の手話言語通訳を取り上げるようになった。会議においては、実際のマニュアルを作成する検討（作業）部会の人選及び、マニュアルを使用した研修会をどのように進めていくか確認を行った。



< 第 1 回検討委員会の様子 >

● 第 2 回

開催日時：2022 年 11 月 17 日（木）

- 議 題：
1. 専門部におけるマニュアル作成の進捗状況について
 2. パンプ（共通部分）の構成（案）について
 3. パンプ（医科学、水泳、バスケ、空手）の構成（案）について
 4. マニュアルを使用した研修会の実施について

議論概要：一昨年、昨年のマニュアルを参考に今年のマニュアルのページ構成について検討を行った。医科学編は競技会場で怪我が起きた時、どう命を守るか、トレーナーの役割、ろう者との協働、ドーピング検査について、競技編は競技のルールを中心に載せる。特に水泳は全国から集まることが少なく競技団体内でも手話が統一されていないとのこと。今年度は 24 ページに増やすことを目標とする。また研修会は委員の都合を調整したうえで、委員が所属する大学にて実施することで決定した。



< 第 2 回検討委員会の様子 >

●第3回

開催日時：2023年1月10日（火）

議 題： 1. 専門部におけるマニュアル作成の進捗状況について
2. マニュアルを使用した研修会の実施について

議論概要：マニュアルの進捗状況確認と研修会の内容について確認を行った。いずれの専門部会も通訳者の立ち位置や注意事項を中心にほぼ8割完成している状況。研修会では現時点での案を出して、研修会で出た意見を補足していくことを確認した。表紙のデザインについては昨年度の表紙を踏襲することを確認。研修会はコロナのため体育館が使えず、100名収容の教室しか使えないため、オンラインと対面のハイブリットで実施することを確認した。



< 第3回検討委員会の様子 >

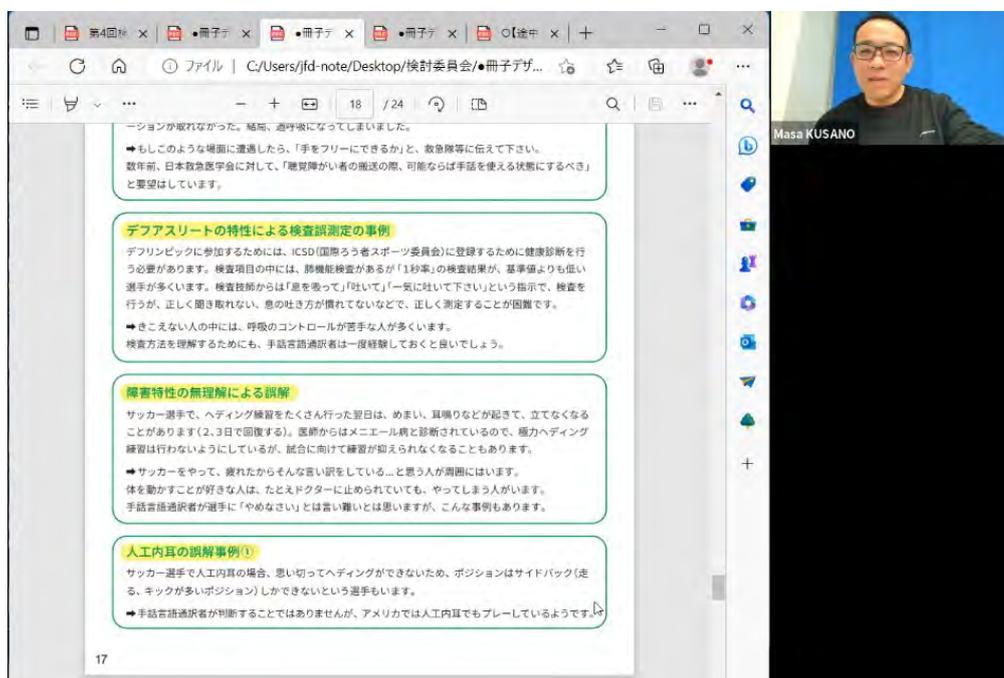
●第4回

開催日時：2023年3月2日（木）

議 題： 1. マニュアルを使用した研修会の報告、反省
2. マニュアル作成の進捗状況について
3. 来年度に向けて

議論概要：研修会で寄せられた意見をもとにマニュアルの最終チェックを行った。研修会のアンケートでは、全員が「とても良い」、「良かった」と回答しており、「スポーツの通訳は専門性が高いと思う。期待される手話言語通訳の分野だと思った。スポーツの分野でも、ろう通訳や手話言語通訳の露出が増え、デフスポーツの認知度が上がる事につながると嬉しい。」というような好意的な意見をいただいた。来年度のテーマとして、2024年はバレーボールの世界選手権、2025年はデフリンピックが日本で開催されるので、国際手話通訳をテーマにしたうえで、国内開催での国際大会と海外遠征の国際大会と2軸あるので、それぞ

れ整理していく。また手話言語通訳者もインテグリティについて知っておくべきという意見も出た。今回のマニュアルはPDFによる配布を中心としており、各競技団体からはもっと多くの製本されたマニュアルが欲しいという意見が寄せられた。



<第4回検討委員会の様子> (マニュアルを確認しながら)

(4) スポーツに精通した手話言語通訳者養成研修会の開催

- ・スポーツに興味のある手話言語通訳者を集めて、作成したマニュアルについて意見交換を行うべく、順天堂大学の会場をお借りして、対面+オンラインのハイブリット形式で行った。当日は対面で40名、オンラインで300名以上の申込があり、関心の高さが伺えた。参加者から集まった意見を元にマニュアルの改善を行った。

【目的】 スポーツ医科学に関する基礎知識や、競技別の専門用語の手話表現、競技中における手話言語通訳者が注意すべきこと等について意見交換を行い、スポーツに精通した手話言語通訳者を養成することを目的とする。

【日時】 2023年2月11日(土) 14:00~16:00 (受付 13:30~)

【場所】 順天堂大学 7号館 1階会議室 (オンライン+対面)

【対象】 スポーツに関心を持っている手話言語通訳の方
デフスポーツやスポーツ医科学に関わっている方
手話言語通訳を受けているデフアスリート

【内容】

1. 本事業の目的及び本日の流れについて

一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局長 山田 尚人

2. 座談会

テーマ: スポーツ現場における手話通訳者として大切にしていること

コーディネーター: 一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

事務局長 山田 尚人

通訳者の立場から

医科学編： 一般社団法人日本手話通訳士協会
空手編： 一般社団法人日本ろう空手道協会
水泳編： 一般社団法人日本デフ水泳協会
バスケ編： NPO 日本デフバスケットボール協会

事務局長 草野 真範
スタッフ 川島 亜希子
スタッフ 山崎 眞季

手話言語通訳者 澤井 美佳

3. パンフレット案に対する意見交換

医科学編： 一般社団法人日本手話通訳士協会
水泳編： 一般社団法人日本デフ水泳協会
空手編： 一般社団法人日本ろう空手道協会
バスケ編： NPO 日本デフバスケットボール協会

事務局長 草野 真範
理事 藤川 彩夏
強化委員 高橋 朋子
強化委員 山崎 由美子

普及委員長 長谷川 俊夫



<オンライン画面> 【右上】 リモートによる講師参加、【右下】 現場の手話言語通訳者



<オンライン画面> 【左】 マニュアル、【右】 現場の講師



<研修会の様子（対面） 1 >



<研修会の様子（対面） 2 >

(5) 成果物

(共通編)「デフアスリートをささえる vol. 3」(分野に応じた通訳技術編)

(競技編)「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック バスケ編」

「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック 水泳編」

「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック 空手道編」



デフアスリートを
ささえる **vol.3**



医科学編

医科学編 (24 ページ)



デフアスリートを
ささえる

競技別手話言語通訳ガイド

[水泳編]

Swimming



水泳編 (16 ページ)



デフアスリートを
ささえる

競技別手話言語通訳ガイド

[バスケットボール編]

Basketball



バスケ編 (20 ページ)



デフアスリートを
ささえる

競技別手話言語通訳ガイド

[空手道編]

karatedo



空手編 (24 ページ)

以上